

運送管理事務をIT化

クラウドで費用抑え

トラックス

ソフトウェアの開発・販売を手掛けるトラックス(本社・千葉市川市、松尾中彦社長)は、このほど運送管理に必要な事務作業をIT(情報技術)化するシステム「Drive Door」を開発。一月からサービスを提供している。

Drive Doorはクラウド

費用が抑えられる。

ネット環境あれば利用可能

運行管理や車両管理、請求管理など運送業務管理に必要な一通りの機能を備える。取引先ごとに請求書の項目を変えたり、出力する書類のレイアウト調整も自由。パソコン入力の不慣れな利用者を想定し、入力画面も三通りの用意した。他システムと連携も。デジタル式タコグラフ(運行記録計)のデータ取り込みや、ETC

請求管理など運送業務管理に必要な一通りの機能を備える。取引先ごとに請求書の項目を変えたり、出力する書類のレイアウト調整も自由。パソコン入力の不慣れな利用者を想定し、入力画面も三通りの用意した。他システムと連携も。デジタル式タコグラフ(運行記録計)のデータ取り込みや、ETC

(自動料金収受システム)利用照会サービスとの連携が可能。得られた情報を手入力する手間が省け、作業負担の軽減につながる。

3カ月ごとに機能を見直し

クラウド型の利点を生かし、利用者の要望を取り入れたバージョンアップを三カ月に一回ほど、無料で行う予定。「いまは海外で事業展開する運送事業者も多い。いずれは英語や中国語に対応し、現地の法的規制に合

致するようなソフトに育てていきたい」(松尾社長)。

導入費用は初期費用七万円、基本の月額費用一万五千円。営業所一拠点

追加ごとに三千円(いずれも税別)が必要とする。問い合わせ先は同社総務部、電話047(300)3346。

(藤本 裕子)